

日本語教師 (初任:生活者)

- (1) 研修の実施内容
- (2) 研修のあり方・課題
- (3) 地域日本語教育の人材育成・
確保に必要なこと



インターカルト日本語学校
日本語教員養成研究所

所長 加藤早苗



令和4年度 文化庁日本語教育人材の研修プログラム普及事業
主催：インターカルト日本語学校 日本語教員養成研究所



この研修のポイント

知る・学ぶ・学び合う

地域に必要な人材になる

「生活者としての外国人」に対する
日本語教師【初任】研修

2008
2009
2010
2011
2012
2013
2014
2015
2016
2017
2018
2019
2020
2021
2022

インターカルト日本語学校

1977年～ 日本語教育事業

1978年～ 日本語教師養成事業

2008年、東京下町に校舎移転
地域に根付くために生活者の
ための日本語教育を事業開始

■ 2008年～2016年

「生活者としての外国人」のための日本語教育事業 受託

地域のお母さんの
ための日本語教室



■ 2018年～2019年

日本語教育人材養成・研修カリキュラム（生活者）等開発事業 受託

■ 2020年～

「生活者としての外国人」に対する日本語教師【初任】研修 普及事業 受託

(1) 研修の実施内容



●対象

日本語教師養成研修(420単位時間以上)修了

大学の日本語教師養成課程修了

日本語教育能力検定試験合格、またはそれと同等の能力を有する者で、

「生活者としての外国人」に対する日本語教育分野における日本語教育歴が0~3年程度の者。

●研修により育成したい人材の資質・能力

生活者としての外国人に対する日本語教育人材に求められる

「地域日本語教室で日本語を教える際の姿勢」

「多文化共生に関する知識」

多様なニーズに対応するための

「臨機応変に対応できる知識と技能」

「コロナ禍でも継続的に生活支援、学習支援をするためのICTの知識」

2022年8月20日(土) 開講

全18回(8/20-12/17) 全90時間 (ライブ研修+課題)

★全ての研修を録画しますので、いつでも、どこでも、視聴は可能です。
但し、ブレイクアウトルームを使用しているときの研修の録画は視聴できません。

共催 **北海道**
一般社団法人 北海道日本語センター

東海
Semiosis株式会社

東北
インターカルト福島サテライト

中国
インターカルト周南公立大学内サテライト

● 受講料
20,000円(税込)



2022年度研修の詳細

研修の全体構成

「生活者としての外国人」
に対する日本語教師
【初任】研修

全90時間
(ライブ研修+課題)

+

担当講師育成研修

講師

【生活者に関する日本語教育】

西原鈴子 (特定非営利活動法人 日本語教育研究所理事長)
伊東祐郎 (国際教養大学専門職大学院日本語教育実践領域 代表)
加藤早苗 (インターカルト日本語教員養成研究所所長)

【地域のICT】

山田智久 (西南学院大学教授)
久我 瞳 (Semiosis 株式会社 研修担当講師)

【多文化共生】

新居みどり (特定非営利活動法人CINGAコーディネーター)
戸嶋浩子 (ひらがなネット株式会社代表取締役)
吉澤弥重子 (ひらがなネット株式会社取締役)
室田真由見 (千葉大学・東京医科歯科大学・獨協大学・東京海洋大学 非常勤講師)

【地域日本語教育 1】

河村八千子 (特定非営利活動法人フロンティアとよはし理事長)
萬浪絵理 (特定非営利活動法人CINGA 地域日本語研究チーム コーディネーター)
立部文崇 (周南公立大学経済学部准教授・地域共創センター長・学長補佐)
関崎友愛 (日本語サービスYOU&I 代表)
半場和美 (特定非営利活動法人フィリピンナガイサ事務局長)

【地域日本語教育 2】

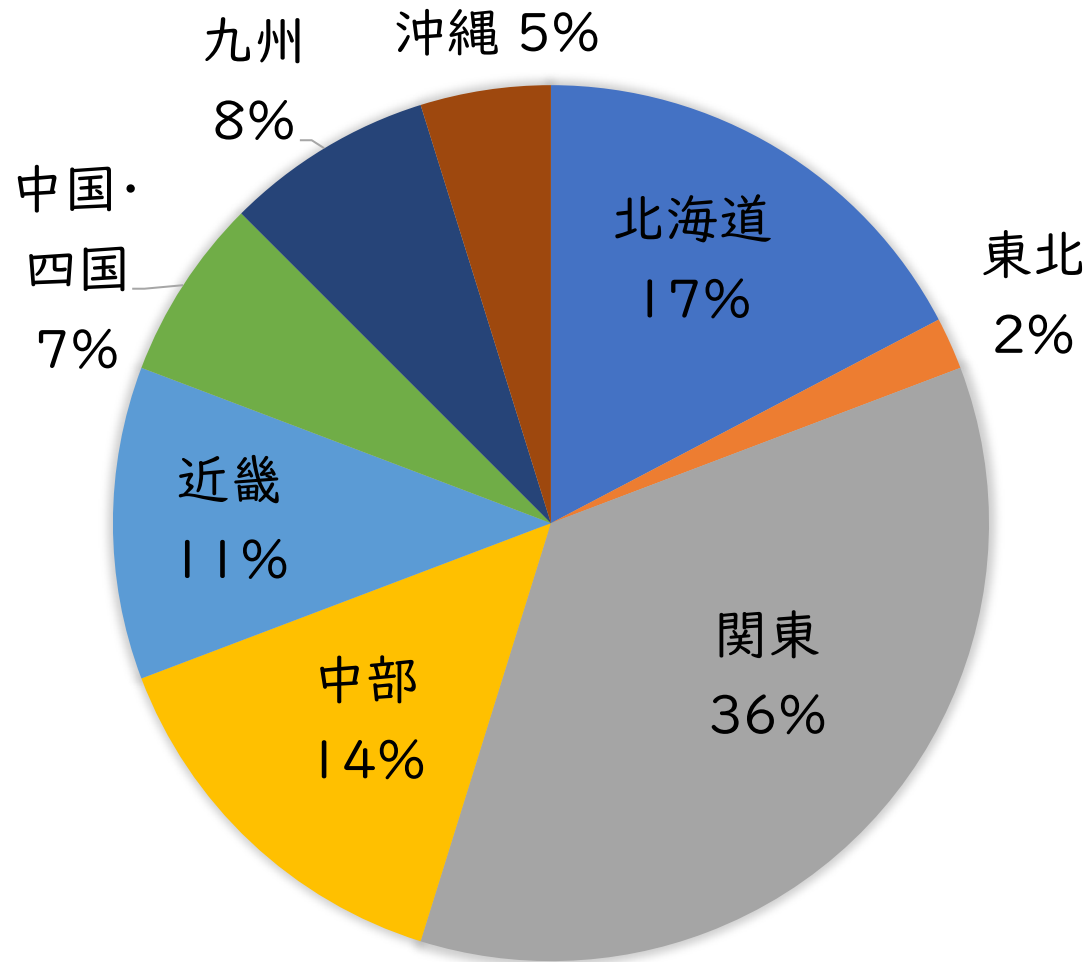
仙田武司 (公益財団法人しまね国際センター多文化共生推進課長)
幕田順子 (一般社団法人ふくしま多言語フォーラム理事)
佐々木千賀子 (蓬莱日本語教室 副代表)
大井裕子 (一般社団法人北海道日本語センター理事)
阿部仁美 (一般社団法人北海道日本語センター理事)

【学習の意欲を高めるための知識や技能】

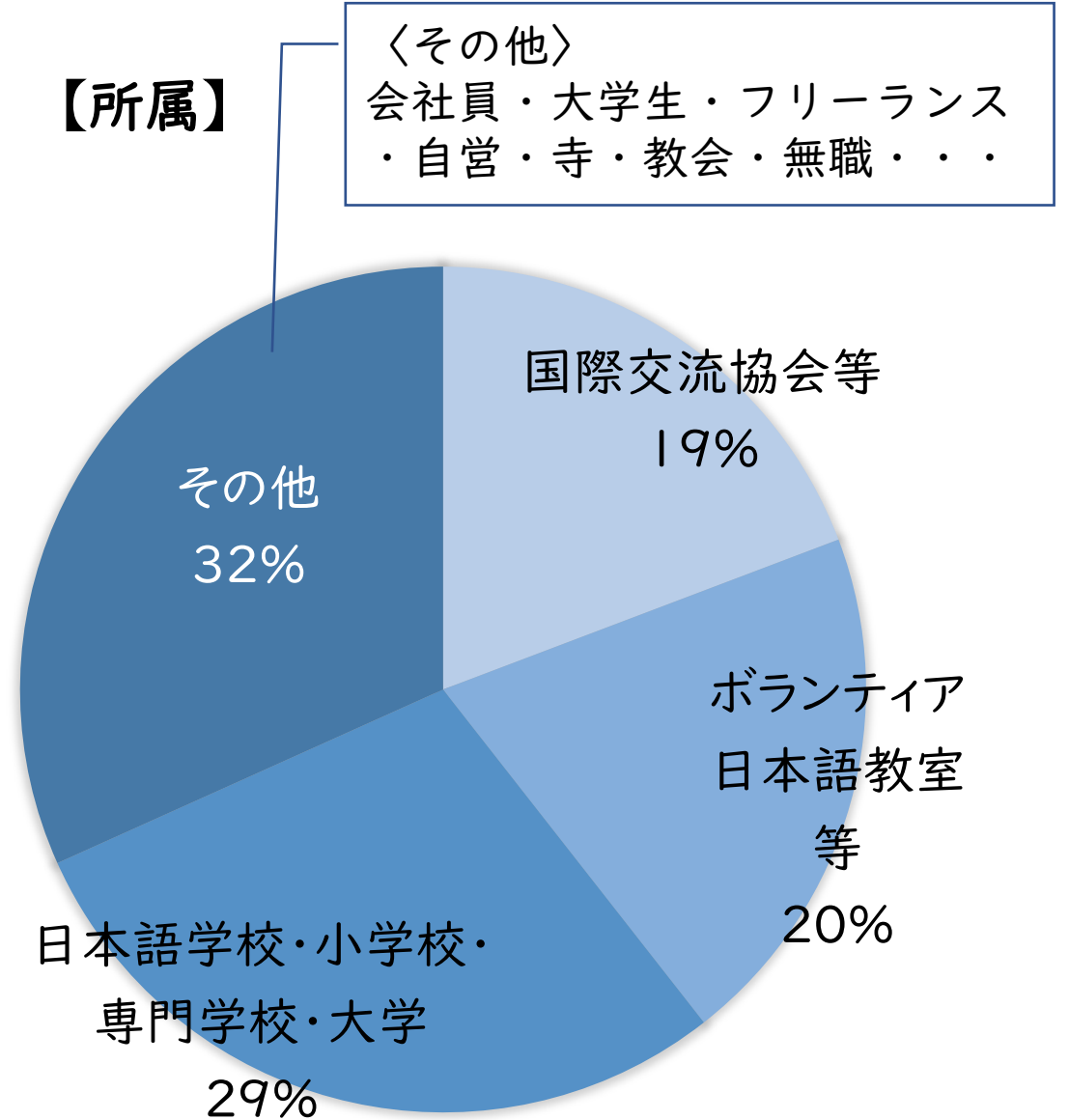
渡辺唯広 (株式会社凡人社 編集部編集長)
大橋由希 (株式会社凡人社 編集部主任)
加藤早苗 (インターカルト日本語教員養成研究所所長)

● 受講生の属性 (2021年度：104名)

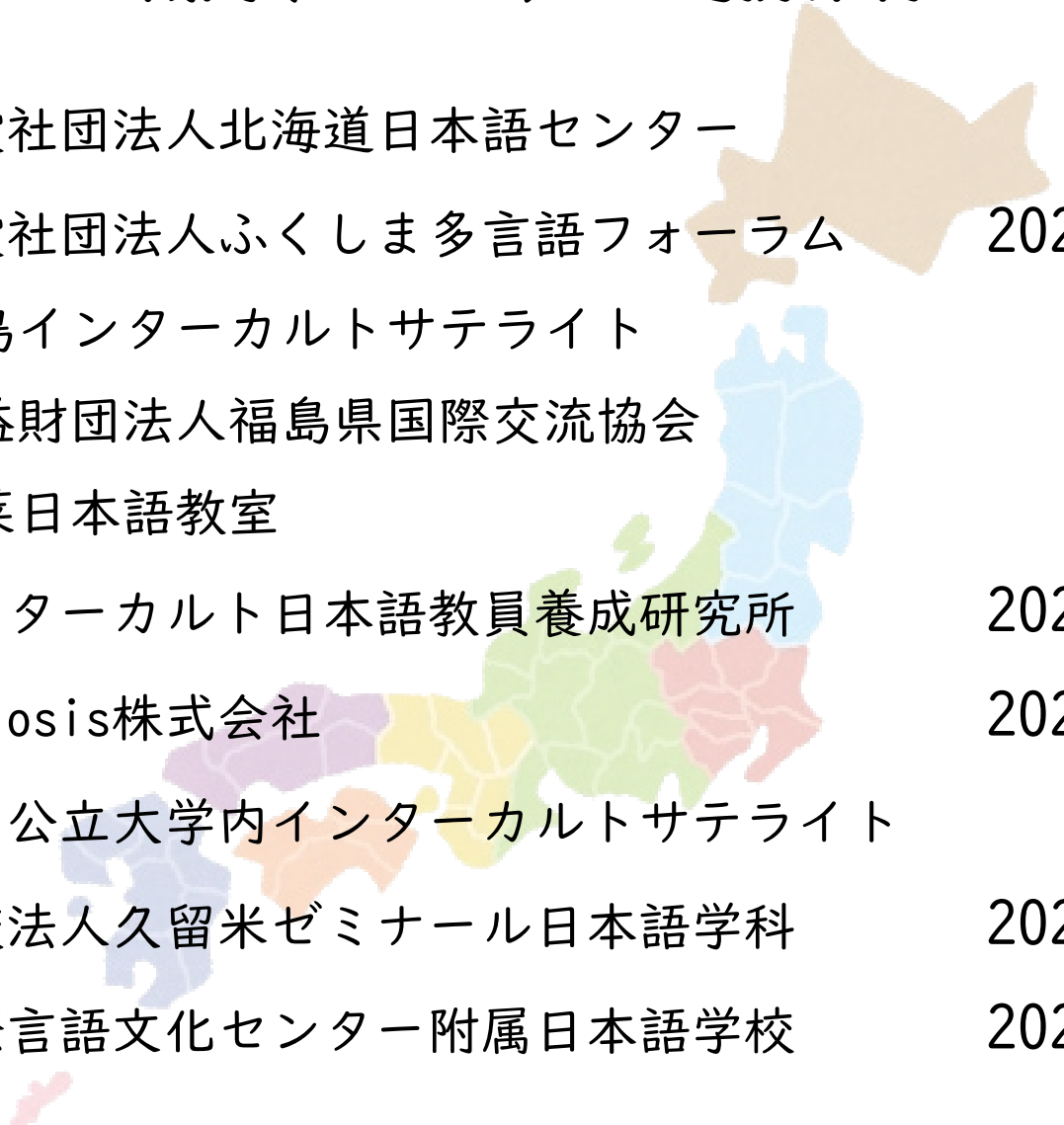
【居住地】



【所属】



●全国各地域のさまざまな機関（ブロック）との連携体制による研修の企画・運営



【北海道】	一般社団法人北海道日本語センター	2021・2022
【東北】	一般社団法人ふくしま多言語フォーラム	2020・2022
	福島インターカルトサテライト	2021・2022
	公益財団法人福島県国際交流協会	2021
	蓬莱日本語教室	2021・2022
【関東】	インターカルト日本語教員養成研究所	2020・2021・2022
【東海】	Semiosis株式会社	2020・2021・2022
【中国】	周南公立大学内インターカルトサテライト	2022
【九州】	学校法人久留米ゼミナール日本語学科	2020・2021
【沖縄】	国際言語文化センター附属日本語学校	2020・2021

空白地域

【北海道ブロック】 1/15・1/29・2/5 空白地域に日本語教室を作ろう！

- 1.場を作る
どうすれば、日本語教室が作れるのか
場所は？お金は？会費をとる？orとらない？
- 2.仲間を作る
どうやって人を集めるのか（教える人、学びたい人）
日本語教師として日本語学習支援者に、どのようなことを知っていて欲しいか
- 3.内容を作る
どんなことをするか考えよう（60分×8回コース）
→そのうち1回分を発表する



インターカルト日本語学校日本語教員養成研究所 「生活者としての外国人」に対する日本語教師【初任】研修



地域防災

【東北ブロック】 1/15, 1/29, 2/12

目標

外国人住民とともに取り組む地域防災における日本語活動をデザインする。

4つのキーワード

災害の地域性

外国人の特異性

支援者としての外国人

やさしい日本語の限界



インターカルト日本語学校日本語教員養成研究所 「生活者としての外国人」に対する日本語教師【初任】研修



【東海ブロック】 1/22, 2/5, 2/19

生活者としての外国人のための電子教材

- 内容：スマートフォン・タブレット用の生活者向け日本語学習教材を制作します。
- 目的：多様な学習スタイルに合わせた日本語教育ができるようにするためです。

作って楽しい！
使って楽しい！

日程	概要	内容
1/22	生活者向け日本語教育と電子教材の活用例	様々な分野での自作電子教材の活用事例を見て、地域の日本語教室での日本語教育における活用方法について考える。
2/5	自作電子教材制作の基礎と実践	スマートフォン・タブレットの特長を活かした教材のアイデアを膨らませる&教材制作に必要な知識と技術を身につける。
2/19	自作電子教材のブラッシュアップと活用	制作した電子教材の発表を通じて教材をブラッシュアップする&制作した教材の活用法について考える。



【沖縄ブロック】 1/22・2/5・2/19

日系人のための短期研修プログラムの作成～日本語で私を語る～

2022年10月開催予定
第7回世界のウチナーンチュ大会に合わせ、
2～3週間の日本語・文化集中研修プログラムを考えよう！！



インターカルト日本語学校日本語教員養成研究所 「生活者としての外国人」に対する日本語教師【初任】研修



「生活者としての外国人」のための日本語教師 学習サイト

このサイトは、これから地域の日本語教室などで生活者としての外国人への日本語教育に携ろうと思っている人たちが、各ページの講座を通して必要な事柄を知ったり、一緒に考えたりしながら学んでいくことのできるサイトです。それぞれの講座は専門家のみなさんにより行われた研修*の内容を元に制作されています。本サイトについて、より詳しくは以下の「[本サイトについて](#)」ボタンをクリックしてください。

* 令和2年度 文化庁「生活者としての外国人」に対する日本語教師【初任】研修

[本サイトについて](#)

はじめに



みなさん、はじめまして。このサイトでの講義を担当するサトーです。よろしく
お願いします！まずはこのサイトの構成をご説明しますね。

本サイトの講座は、大きく分けて「(生活者を対象とした) **日本語教育**」、「**多文化共生**」、「**地域の日本語教室**」の3つのパートに別れています。さらに、それぞれのパートが「**理論・概念編**」と「**事**

サイト内検索

検索

このページの内容



1. 導入パート

1.1. 前提として

2. 日本語教育パート

2.1. 理論・概念編

2.2. 事例・実践編

3. 多文化共生パート

3.1. 理論・概念編

3.2. 事例・実践編

4. 地域の日本語教室パート

4.1. 理論・概念編

4.2. 事例・実践編

[講義一覧](#)

研修の効果・成果



この研修のポイント

知る・学ぶ・学び合う

地域で必要な人材になる

さまざまな地域・分野で実際に活躍している専門家からの具体的な活動事例や課題の情報

全国から参加している受講生同士の情報交換や協業を通じた学び合い

ICTの進化や活用によって広がる、研修企画側の連携、地域を超えた受講生同士の学び合い、学習者の学びの機会拡大の可能性の体験

研修修了後の「必要とされる場」への明らかな道筋は見えない



- 地域日本語教育の特性に気づく
- 日本語教育の専門知識や他の分野（留学や就労など）での授業経験以外に必要なことがあることを知る
- 他の受講生との学び合いから新たな気づきを得る
- 地域ブロックで行われる活動から、自らの地域を見つめ直す機会を得る
- 地域日本語教育の深さ、おもしろさを発見する
- 日本語教師としての活躍の場としての地域日本語教育での可能性を知る

(2) 人材育成・確保における課題

■ 地域日本語教育人材の「育成」

- 誰が（どこが）育成を担うのか
- 育成されるべき人、つまり地域日本語教育人材を目指す次世代の人材は十分に
いるのか（「ボランティア≠プロの日本語教師→有償」の仕組みはできるのか）
- 地域の日本語教育はボランティアが、という風潮や方針は払拭できるのか

■ 地域日本語教育人材の「確保」

- 確保の仕組みが見えない
確保とは、育成した人材を的確に活用する仕組みではないか

■ 地域日本語教育人材の「配置」

- 地域日本語教育人材とは、日本語教師、地域日本語教育コーディネーター、日本語
学習支援者すべてを指すと考える
それらの配置以前の問題として、連携するべきそれらの育成が別々に行われている

(3) 地域日本語教育の人材育成・確保に必要なこと

- ✓ 研修修了生を採用・配置につなげる仕組みが必要
- ✓ 現在行われている「生活者初任」「日本語学習支援者」「地域日本語教育コーディネーター」研修それぞれの連携、全体として見た上でのゴールに向けてのデザインが必要
- ✓ 地域日本語教育のグランドデザインが必要
それぞれの研修修了生が、それぞれの地域で連携・協力し合える仕組みが必要
- ✓ 日本語教育人材の育成では、オンラインと対面を組み合わせた研修の開発が必要
コロナでストップしているOJT（対面）の機会の再会を待つ
- ✓ 地域日本語教育の充実のために、オンラインによる日本語教育の活用は不可欠
特に日本語教育の空白地域はそれによって充実度が格段に上がる
デジタルネイティブ世代との過渡期にある今、そのための教師研修も必要